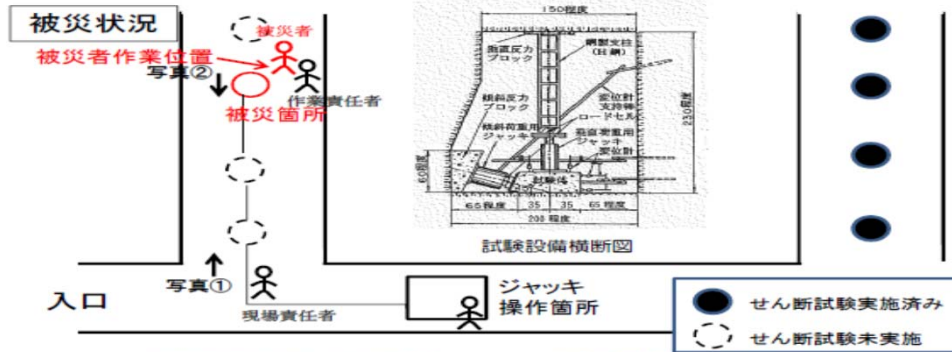


事故種類	労働災害	発生日時	平成27年4月15日 9時40分	事故当事者	1次下請け
事故区分	労働災害	年齢性別	46歳,男性	職種	地質調査員
被災程度(全治)	左示指末節部不全切断、左示指中手骨頭複雑骨折(全治2ヶ月)				
事故概要	せん断試験の垂直荷重用ジャッキと鋼製支柱をセット後、加圧バルブをフリーにしたため、ジャッキが支柱重量及び自重で降下し支柱が傾いた。近隣で別途作業を行っていた被災者が、傾いた支柱を支えようとしたところ、上部より調整用の鋼材(200×200×23)が落下し、左手人差し指がジャッキと鋼材の間に挟まれた。現場の安全管理としては、鋼製支柱の転倒防止対策を実施していたが、試験範囲外で別途作業(湧水対策)を行っていた被災者が、反射的に手を出した模様。				
事故原因等	今回の事故は支柱が転倒し、転倒を押さえようと手を出したところに調整用の鋼材が落下し手を支柱に挟んで発生している。 事故の原因:被災者が支柱の危険状態を認識していたが待避しなかった。 危険状態が発生した要因:油圧ポンプの加圧を解除し、元に戻すのを忘れた。				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・事故対策の基本である「危機状態からの待避」を作業員へ徹底。 ・油圧ポンプの加圧、減圧切替は操作者と確認者2人で安全を確認しながら行う。 ・試験準備完了後から試験完了までは試験を実施している枝坑には入らない。 ・鉛直ジャッキの転倒に対する対策をさらに強固にする。 ・試験装置据付時の作業手順を見直し 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・せん断試験における作業手順と安全対策				

事故状況図



改善策



*まる数字は前ページの15) 試験装置据付け時の作業手順と事故防止)の手順番号に対応

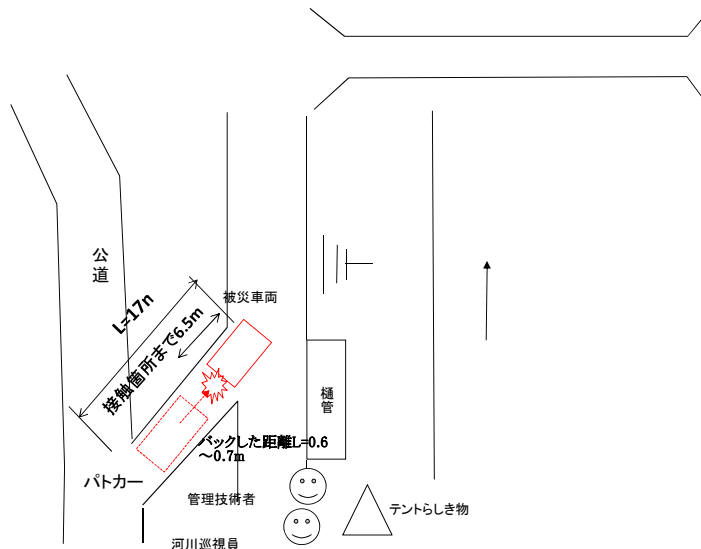
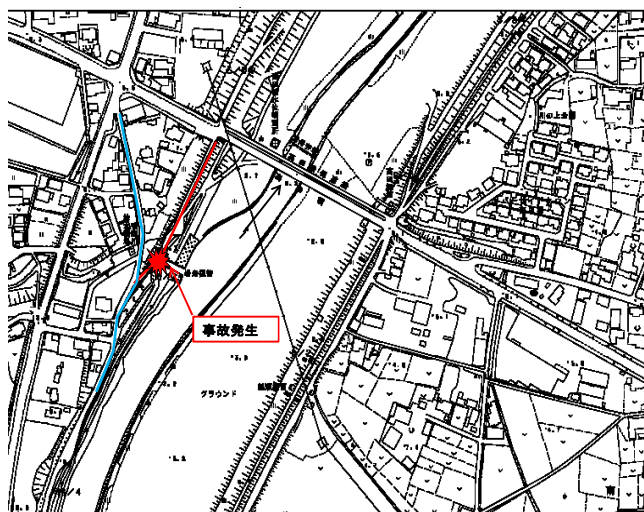
作業手順の見直しと安全対策の強化

図 4 せん断試験装置据付け時の強化安全対策



事故種類	一般事故	発生日時	平成27年4月17日11時05分	事故当事者	一次下請け
事故区分	公衆災害	年齢性別	66歳 男性	職種	運転手
被災程度(全治)	車両損傷、怪我等の外傷なし				
事故概要	当日、3人(運転手含む)で下流から上流に向け河川巡視中、高水敷竹藪において、テントらしき物を発見したため、巡視員が運転手に停車を指示した。運転手は指示から約10m走行したところ(川裏坂路途中)でパトカーを一旦停車させ、巡視員及び管理技術者が降車し確認に向かった。その後、運転手はパトカーを堤防天端に移動させようと車内から安全を確認した後、後進させた。その直後に後続していたと思われる軽自動車に衝突した。				
事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> ・パトカーを他の車両が離合できない箇所まで停止させ、かつ後退させた。 ・後退の際、後方の安全確認をしたが、後方車両が死角に入り、これに気づかなかった。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・巡視中においてパトカーを停止させる場合は、他の車両が離合可能な場所まで移動して停車させる。 ・現地において、パトカーををやむを得ず後進させる場合は、運転手は後方確認を確実に行うとともに、同乗する河川巡視員の誘導のもと後進を行う。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・後日の現場確認で、パトカー車内からでは後方車両が死角に入る場合もあることが判明したことから、他の管理支援業務においても今回の事例を周知し注意喚起するよう指導した。 				

事故状況図



改善策

- ・巡視中においてパトカーを停止させる場合は、他の車両が離合可能な場所まで移動して停車させる。
- ・現地において、パトカーををやむを得ず後進させる場合は、運転手は後方確認を確実に行うとともに、同乗する河川巡視員の誘導のもと後進を行う。